

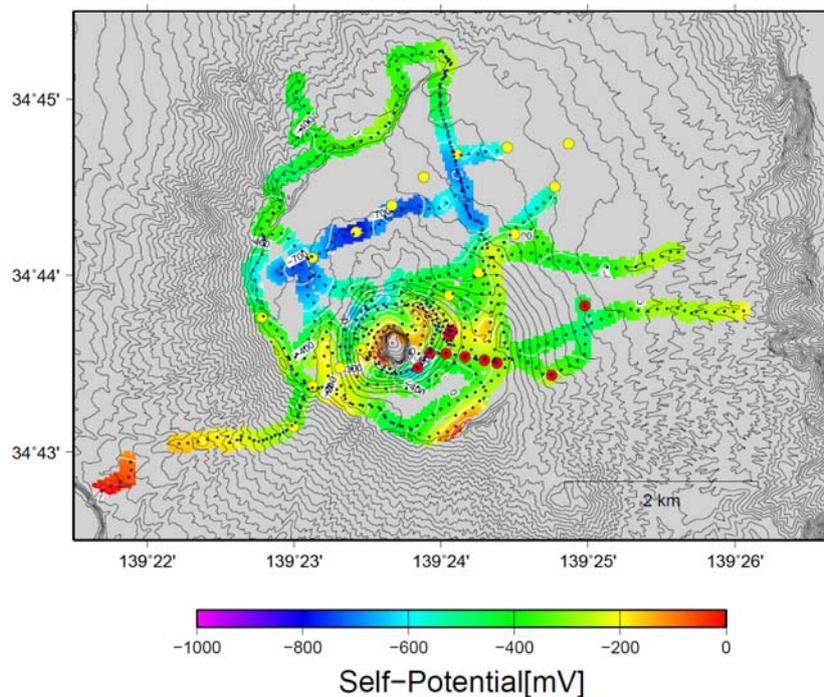
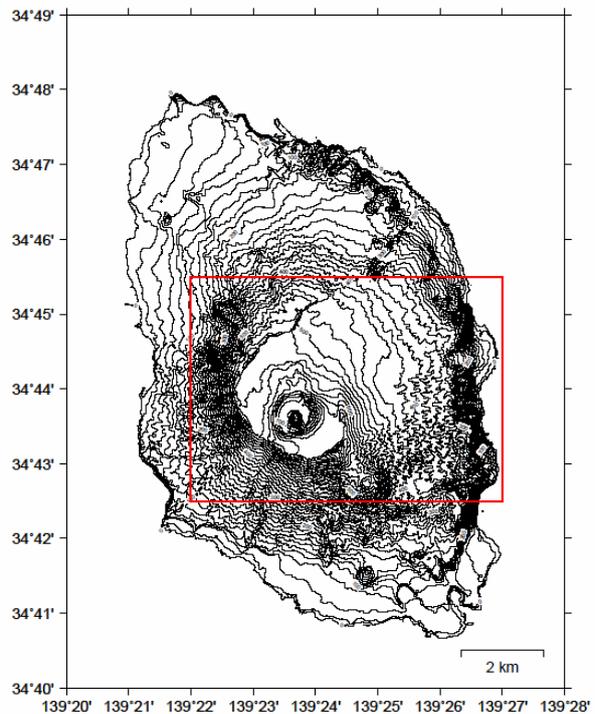
## 伊豆大島の自然電位観測

今後の火山活動の活発化に伴う熱水流動系の変動を捕らえる目的で 1) 全体的な自然電位の分布を測定した上で、2) 特定の観測点において連続観測を行っている。

### 1) 自然電位分布観測

- 2006 年 3 月, 2007 年 4 月および 6 月に第 1 図の範囲で測定した。
- 三原山山頂域, 南部カルデラ壁に正, 三原山北部のカルデラ床に負の異常が見られる (第 2 図)。
- 分布のほとんどは雨水の浸透で説明可能である。

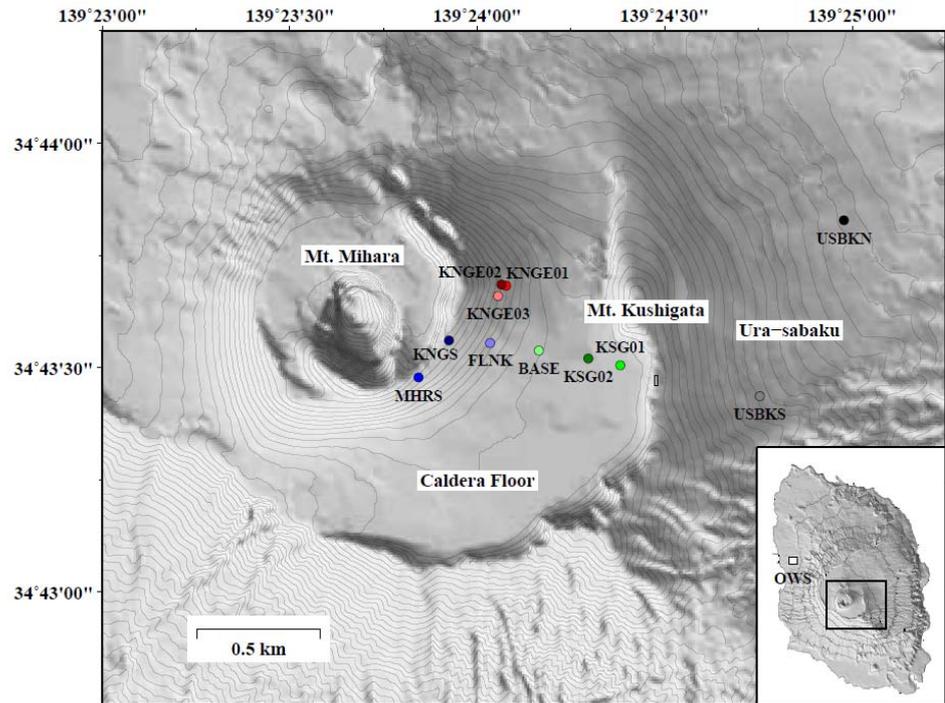
第 1 図 測定領域. 地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 10m メッシュ標高」を使用した。



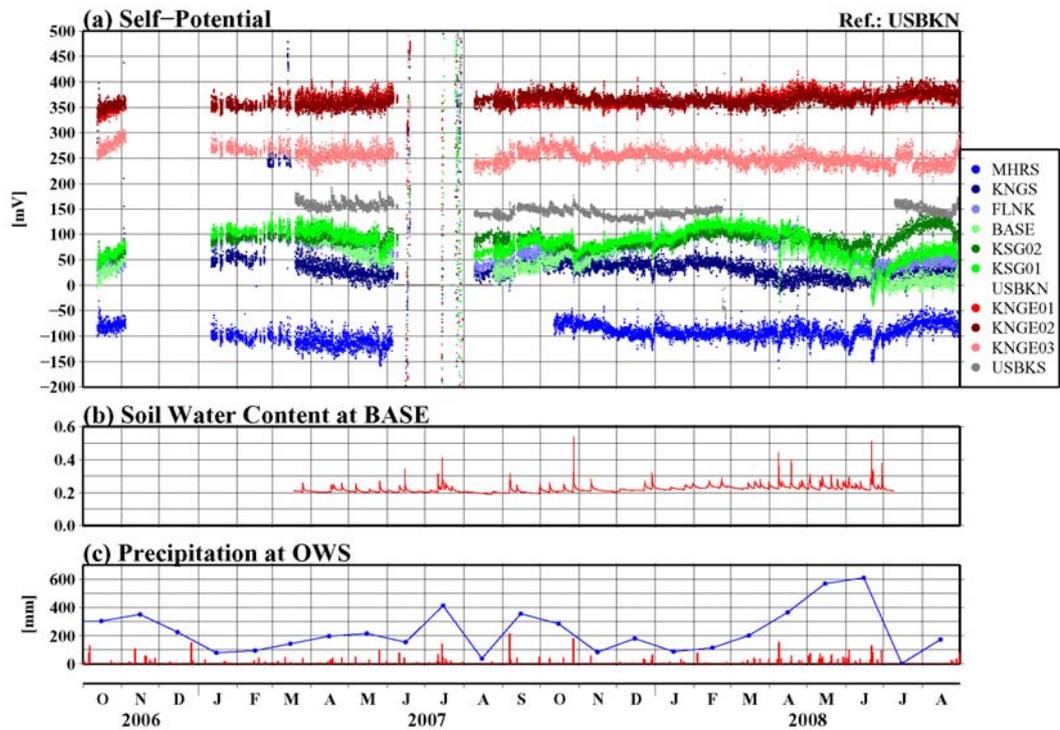
第 2 図 自然電位分布. 赤丸は連続観測点. 地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 10m メッシュ標高」を使用した。

2) 自然電位連続観測

- 2006 年 10 月より第 3 図の観測網を整備し自然電位の連続観測を実施している。
- 経時変化(第 4 図)は 10~20mV のばらつきを示すものの安定している。
- 楕円山よりの複数の測点(緑色系)で降雨に対応した短期、長期的変動をしている。



第 3 図 観測点分布. 地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 10m メッシュ標高」を使用した。



第 4 図 (a) 裏砂漠の観測点 USBKN を基準とした各点の経時変化, (b) 土壌水分量, (c) 降水量(気象庁大島測候所, 青: 月毎, 赤: 日毎)